

1月30日日本子ども宣教局伝道学校（子ども）

2月学院福音化

1課「神様のやぐらと3つの時刻表」

使徒の働き 1:1、3、8

1. テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。
3. イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。
8. しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

2月最初の週、第1課学院福音化のタイトルは神様のやぐらと三つの時刻表ですが、今日は、永遠という概念の中で過去、現在、未来について、みことばを黙想しましょう。

もちろん、結論はキリスト、神の国、聖霊の満たしになります。

今日のメッセージは、とても短くて太いです。短いですが、難しいので、集中してよく読んで、黙想してください。

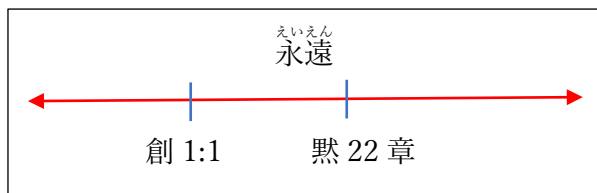
聖書箇所は、使徒の働き 1章1節、3節、8節です。（最初に書いているので読んでください）

まず聖書は私たちの救いの出発は、いつだと話しているでしょうか。エペソ人への手紙1章4節のみことばを見ましょう。

エペソ 1章4節

すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

明らかに「世界の基が据えられる前」だと言われています。その「世界の基が据えられる前」を言い換えると「永遠」です。



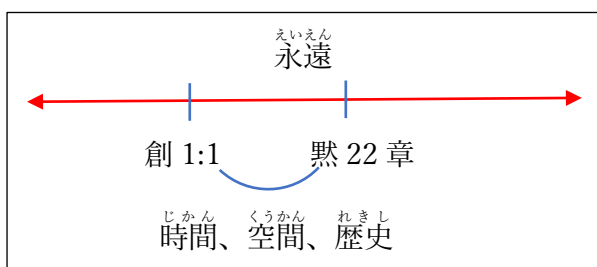
わたしのあたまでは理解できないのですが、永遠ということは、始まりもなく終わりもない、永遠に続くことでしょう。ところで、その永遠のある時点で、時間と空間というものが創造されました。

それが創世記1章1節、「はじめに神が天と地を創造された。」で起こったことです。そのように創造された時間と空間の、その歴史の中でだけ過去、現在、未来というものがあるのです。

聖書が記録された創世記1章1節から黙示録22章21節の最後まで、これが神様が造られた「創造の世界の歴史」です。

歴史の中には過去、現在、未来がありますが、永遠というものの中には過去や未来はありません。しいていえば、永遠の現在だけがあるのです。そのようにして、「世界の基が据えられる前に」選ばれた私たちの救いは、永遠の現在だと言うことができるでしょう。

神様が時間を創造される前に、永遠の中で、ある目的を持って時間と空間の世界であるこの歴史を



創造されたのです。そして、「世界の基が据えられる前」永遠の中にいる信徒たちが、肉を持って、物質世界である歴史を生きるようにされたのです。その理由は何でしょうか。その答えは後からお話します。

聖書は、この物質世界である天地がどうなると話しているのでしょうか。ペテロの手紙第二3章7節と10節と黙示録21章1節を見てみましょう。

II ペテ 3:7、10

07 しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。

10. しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまうです。

黙 21:1

また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

明らかに今、私たちの目に見えるこの世界、天地はなくなると言われています。

そのように、この肉体^{にくたい}を持っている人間^{にんげん}は、この肉^{にく}を脱^ぬいでしまうとき（それを肉^{にく}的な死^しと言うの
ですが）永遠^{えいえん}の中^{なか}に入^{はい}ります。言^いい換^かえれば、今^{いま}、見^みた聖^{せい}句^くのよう^{よう}に、時^じ間^{かん}と空^{くう}間^{かん}の歴^れ史^しは、いつ
か消滅^{しょうめつ}して消^きえてしまい、永^{えい}遠^{えん}だけが残^{のこ}るのです。個^こ人^{じん}の終^{しゅう}末^{まつ}か時^じ代^{だい}の終^{しゅう}末^{まつ}かは、こ^こと^とば^ばの差^さで
あるだけで同^{おな}じこ^ことです。とにか^かく、この時^じ間^{かん}と空^{くう}間^{かん}がある歴^れ史^しは、永^{えい}遠^{えん}の中^{なか}の「ある一^{ひと}つの
地^ち点^{てん}」にしばらく存^{そん}在^{ざい}して消^きえるものだとい^いうこ^ことです。

永^{えい}遠^{えん}の概^{がい}念^{ねん}は分^わかるでし^しょう。その永^{えい}遠^{えん}の中^{なか}での過^か去^こ、現^{げん}在^{ざい}、未^み来^{らい}があるこの歴^れ史^しについ^つての概^{がい}念^{ねん}
につい^つて説^{せつ}明^{めい}しまし^した。

今^{こん}月^{げつ}の1課^かの^{ない}内^{よう}容^{りよう}が、過^か去^こ問^{もん}題^{だい}解^{かい}決^{けつ}、現^{げん}在^{ざい}、未^み来^{らい}につい^つての^{ない}内^{よう}容^{りよう}な^なので、説^{せつ}明^{めい}しまし^した。

では、先^{さき}ほどした質^{しつ}問^{もん}に^{もど}戻^{もど}って^{もど}みま^もす。

＜私^{わたし}たち^{れきし}に歴^{れきし}史^しを^{つう}通^か過^かさせ^りら^りれる理^り由^{ゆう}＞

それなら、「神^{かみ}様^{さま}はあ^あえてな^なぜ、私^{わたし}たち^{かみ}神^{たみ}の民^{しん}、信^{しん}徒^とに、この歴^{れきし}史^しとい^いう所^{ところ}を^{つう}通^か過^かする^{よう}にさ
れたのか」とい^いうこ^ことです。この歴^{れきし}史^しを^{つう}通^か過^かしな^なくても、天^{てん}国^{こく}に入^{はい}る^はに^には^に何^{なん}の支^し障^{しょう}もな^なく、世^せ界^{かい}の
基^{もと}の据^すえら^えれる前^{まえ}に選^{えら}ば^られた契^{けい}約^{やく}の民^{たみ}である^のに^もか^かわ^わら^らず、な^なぜあ^あえてこの時^じ間^{かん}と空^{くう}間^{かん}と物^{ぶつ}質^{しつ}
があり、また、過^か去^こと現^{げん}在^{ざい}と未^み来^{らい}があるこの歴^{れきし}史^しを^{つう}通^か過^かして生^いきる^{よう}にさ^された^のでし^しょうか。答^{こた}
えは簡^{かん}単^{たん}です。

1. 私^{わたし}たちが^{すく}ど^どの^{じゅう}よう^{じか}に救^{きう}わ^われる^{せつ}めい^{めい}か（キ^きリ^りス^すト^との^{じゅう}じ^じか^か）説^{せつ}明^{めい}する^{ため}ため

私^{わたし}たちが^{すく}ど^どの^{じゅう}よう^{じか}に救^{きう}わ^われる^{せつ}めい^{めい}よう^{よう}にな^なった^{はなし}のかを説^{せつ}明^{めい}する^{ため}ためです。こ^ここについ^つて話^{はなし}すこ^ことはと
ても多^{おほ}い^いい^いのですが、短^{みじ}く説^{せつ}明^{めい}しま^しす。

「自^じ分^{ぶん}の背^{そむ}きと罪^{つみ}の中^{なか}に死^しんで^{わたし}いた」私^{わたし}たちが、ど^どの^{かみ}よう^さに神^{かみ}様^{さま}と^{もの}も^{もの}に^{もの}い^いる^{もの}者^{もの}にな^なった^のか、
ど^どの^{えい}よう^{えん}に永^{えい}遠^{えん}の神^{かみ}の国^{くに}を生^いきる^{もの}者^{もの}にな^なった^わか^わる^わよう^わにさ^される^{まな}た^{まな}めに、学^{まな}び^{まな}の場^ば所^{しょ}と^{あた}して与^{あた}
え^えら^えれた^のです。そ^その^{ちゅう}中^{しん}心^{しん}にはイ^いエ^えス^す・キ^きリ^りス^すト^とが^{じゅう}お^おら^られ^{じけん}ま^ます。イ^いエ^えス^す・キ^きリ^りス^すト^との^{じゅう}じ^じか^かの^{じけん}事^じ件^{けん}
を^{とお}通^として、そ^その^{まえ}前^{まえ}とそ^その^{あと}後^{あと}が^{かん}完^{ぜん}全^{ぜん}に^か変^{へん}わ^わる^{よう}に^なった^のです。十^{じゅう}字^じ架^かは、永^{えい}遠^{えん}の^{げん}現^{げん}在^{ざい}です。

ヨ^よハ^はネ^ねの福^{ふく}音^{いん}書^{しよ}14章^{しやう}1節^{せつ}で3節^{せつ}を見^みま^みし^しょう。

- 1 あなたがたは心^{こころ}を騒^{さわ}が^{かみ}せては^{しん}なり^{しん}ま^{しん}せん。神^{かみ}を信^{しん}じ、また^{しん}わ^{しん}た^{しん}し^{しん}を信^{しん}じな^{しん}さい。
2. わたしの父^{ちち}の家^{いえ}には住^すむ所^{ところ}が^ばた^ばく^ばさん^ばあ^ばり^ばま^ばす。そ^そう^そで^そな^そか^そつ^そたら、あ^あな^あた^あが^あた^あの^あた^あめ^あに^あ場^ば所^{しょ}
を^{よう}用^{よう}意^いし^いに^い行^いく、と^い言^いった^いでし^いょうか。
3. わたし^いが^い行^いって、あ^あな^あた^あが^あた^あに^ば場^ば所^{しょ}を^{よう}用^{よう}意^いした^きら、ま^また^ま来^きて、あ^あな^あた^あが^あた^あを^わわ^わた^わし^わの^わも^わと^わに^わ迎^{むか}
え^えま^えす。わ^わた^わし^わが^わい^わる^わと^わこ^わろ^わに、あ^あな^あた^あが^あた^あも^もい^いる^いよう^いに^いす^いる^いた^いめ^いです。

イエス・キリストが十字架を通して、私たちに永遠の、完全な神の国を完成されたのです。

2. イエス・キリストの十字架を通して現わされた神様の栄光、力を私たちが正しく見つめて、神様の栄光と力と恵みをほめたたえる者になるようにするため

そして、私たちが歴史を通過するようにされた二つ目の理由は、イエス・キリストを通して、この歴史にあらわされる神様の栄光と力を正しく見つめるようにです。

イエス・キリストの中に、その十字架の事件の中には、神様の愛と恵みとあわれみ、すべてが入っています。そのイエス・キリストの十字架が神様の栄光であり、その十字架が神様の力だとも言われています。そのように、イエス・キリストの十字架を通して現わされた神様の栄光、力、それを私たちが正しく見つめて、その神様の栄光と力と恵みをほめたたえる者になるようにするためです。

何か一生懸命に働きをなさないと願って、この歴史を生きるようにされたのではないということです。エペソ人への手紙1章3節から6節を読んでみましょう。

エペ 1:3-6

3. 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。
4. すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。
5. 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられました。
6. それは、神がその愛する方であって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

6節に確かに書いてあるでしょう。「恵みの栄光が、ほめたたえられるためです」それが私たちが造られた目的であり、この歴史を通過している理由なのです。私たちがなにか立派な人になって、また、神様が喜ばれるくらいの立派なことをたくさんして、神様からほめてもらったり、賛美を私たちが受けるのではなく、神様が、私のような罪人、いや罪人のかしらのような私にしてくださいましたことを、私たちはほめたたえるのです。常に、この部分をのがしてはいけません。少しでも人々がほめられることは、神様が喜ばれないのです。皆さんが、何かうまくできても、でき

なくても、そのために^{よろこ}喜んだり、^{かな}悲しんだりする必要がないのです。^{えいえん}永遠の^{げんざい}現在であるキリストの十字架を見上げて立って立れば良いのです。

^{けつろん}結論です。

^か過去は、^{わたし}私が^{つみびと}どんな罪人であり、^{じょうたい}どんな状態にあったかを^ふ振り返ってみることです。

^{みらい}未来というのは、それにもかかわらず、^{わたし}私が^{すく}救われた^{かみ}神の^こ子どもになって入る^{はい}完成された^{かんせい}天国、^{てんごく}神の^{くに}国を見上げて、^ま待ち望みながら^{いの}生きることになったかを見^{みとお}通すことです。

そして、^{げんざい}現在はそのような^か過去と^{みらい}未来を^{すく}救いという^{えいえん}永遠の^{げんざい}現在につながるようにされたイエス・キリストの十字架を^{しんこう}信仰によって^み見上げることです。つまり、^か過去と^{みらい}未来が^{つづ}続くように、^し死んでいた^{わたし}私が^い生きたものとなり^{かみ}神の^{くに}国に行くように、^か過去と^{みらい}未来をつないでくださったイエス・キリストの^{すく}救いの^{げんざい}現在、^か過去と^{みらい}未来を^{つづ}続くようにされたイエス・キリストの十字架を^{しんこう}信仰によって^み見上げることが^{げんざい}現在です。

また、^{かみ}神の^{くに}国のことということは、^{とくべつ}特別に^{でんどう}伝道と^{せんきょう}宣教をたくさんしなさいといことではありません。イエス様が、^{さま}ご自分を^{じぶん}むなしくして、^{すがた}しもべの^し姿をもって、^し死にまで^{ちち}父なる^{かみさま}神様に^{じゅうじゆん}従順に^{ふくじゅう}服従され、^{かんせい}そのようにして^{かみ}完成されたのが^{くに}神の^{くに}国です。それが^{かんたん}神の^{はな}国のことです。簡単に話せば、^{わたし}私^{じぶん}たちも^す自分を捨てて、^{じぶん}自分の^{じゅうじか}十字架を^お負うことです。そのようにして、イエス・キリストの^{かた}生き方が、^{わたし}私たちの^い生き方として^{かた}同じく^{おな}現れるように、^{あらわ}祈らなければなりません。^{ひと}ヘブル人への^{てがみ}手紙^{しやう}12章^{せつ}2節を見ましょう。

へブ 12:2

^{しんこう}信仰の^{そうししゃ}創始者であり^{かんせいしゃ}完成者であるイエスから、^め目を^{はな}離さないでいなさい。この方は、^{かた}ご自分の^{じぶん}前に^{まえ}置かれた^{よろこ}喜びのために、^{はずかし}辱めをものともせず^{じゅうじか}に十字架を^{しの}忍び、^{かみ}神の^み御座の^み右に^{みぎ}着座されたので^{ちやくざ}す。

^{せいかつ}この^{わたし}生活が^{あらわ}私^{しゅんかんしゅんかん}たちから^た現れるためにも、^{せいいい}瞬間瞬間、^み絶えず^{いの}聖霊に満たされるように祈らなければ

^{つづ}続けて^{もくそう}黙想する中で、^な神様の^{めぐ}恵みが^{あた}与えられますように^{いの}祈ります。